

肺結核患者ノ頸部及ビ腋窩淋巴腺腫ニ就テ

大阪市立刀根山療養所

(所長有馬博士) 辻 川 健 次

人類淋巴腺ノ正常ノ大サハ甚ダ不同ニシテ(二乃至三)ノ長徑ヲ有ス……ラウバー、コフシニ、ソノ著シク腫大セザル限リハ、大サノミニヨリテ、病的腫大ナリヤ否ヤヲ定ムルコト困難ナリ。Baur^③ハ二五名ノ初生兒及ビ三五〇名ノ小兒ニ於テ、「レンズ」豆大乃至豌豆大ノ腋窩及ビ鼠蹊部淋巴腺ヲ觸レ Lochsinger^④ハ絶對健康乳兒ニ於テハ淋巴腺ヲ觸知シ得ルコトナク、腋窩直下第四第五肋間ニ於ケル胸淋巴腺(ラウバーノ下腋窩腺カ)ハ胸腔内淋巴腺ノ連通シ胸腔内ノ炎症ニ際シ腫脹シ得ルモノニシテ、肺ノ炎症又ハ微毒ヲ有スル乳兒、及ビ胸腹部外壁ノ炎症ヲ有スル乳兒ニ於テハ、該淋巴腺ヲ觸ル、ヲ通常トスト云ヘリ。Bauer^⑤ハ肺結核患者ノ鎖骨上淋巴腺ヲ調査シ七八%ニ於テ之ヲ觸レ、健康壯丁ノ四一%ニ於テ之ヲ觸レ得タリ。

然ルニ Battef^⑥ Kraus^⑦ハ淋巴體質者ニ於テハ結核ハ比較的善性ニ經過スト説ケリ。

肺結核患者ニ於テハ健康者ニ比シテ頸部及ビ腋窩淋巴腺ヲ多ク觸レ得ルモノナリヤハ(其ニ淋巴病性原因ヲ除キ)多數ノ結核病者、健康者及ビ結核非罹患者等ノ調査ヲマツテ後始メテ決定シ得ベシ。余ハ主トシテ尙療養所收容ノ患者ニ就テ、頸部及ビ腋窩淋巴腺ノ觸知シ得ル頻度ヲ調査セリ。其ノ數ハ大數ノ法則ヲ適用シテ、確率ヲ決定シ得ンニハ餘リニ少數ナレドモ、概略ヲ窺ヒ得ベキヲ信ジ、左ニ記載ス。

調査ノ材料ハ大正十三年十月當所在所患者二八八名及ビ同月中ノ新入所者ト一結核診療所ニ於ケル新來患者一〇八名、合計三九六名ニシテ、ソノ頸腺及ビ腋窩腺ヲ觸知シ得ル頻度ヲ、表示スレバ左ノ如シ(表一及ビ表二)。

觸知淋巴腺ハ其ノ長徑ニヨリテ $A=0.75$, $B=1.0$ $C=1.35$ $D=1.65$ $E=2.1$ $F=2.55$ $G=3.6$ $H=5.4\text{cm.}$ ニ分チタリ。多クノ場合二個以上ヲ觸ル、モ、表ニハソノ最大ナル者ヲ擧ゲタリ。

七四

第一表

累 計	新 來 患 者 一 〇 八								在 患 者 二 八 八								病 期 別	〇	A (%)	B "	C "	D "	E "	F "	G "	H "	計
	合 計	女 四 八			男 六 〇			合 計	女 六 八			男 二 〇															
		計	I, II 三三	III 一五	計	I, II 三二	III 二八		計	I, II 三四	III 三六	計	I, II 一〇一	III 一一九													
一二三	三二	二〇	一五	五	一二	六	六	九一	二七	一四	一三	六四	二四	四〇	二四(三二)	三四(四四)	一三(二七)	三(四)	三(四)	〇	二	〇	二七三(六九)				
五三	九(一二)	三(一二)	一(六)	二(二〇)	六(一二)	四(二五)	二(九)	四四(二二)	四(二〇)	〇	四(一九)	四〇(二六)	一六(二二)	二四(三一)	三八(四九)	一〇(二三)	八(二〇)	四(五)	一(二)	〇	〇	七九(六六)					
一一二	二二(三〇)	一〇(三六)	七(三九)	三(三〇)	一二(二五)	八(三一)	四(一八)	九〇(四六)	一八(四四)	一〇(五〇)	八(三八)	七二(四六)	三八(四九)	三四(四四)	三三(二五)	一一(七)	七(四)	一〇(六)	二	〇	〇	一五六(七〇)					
六〇	二九(三八)	七(二五)	五(三八)	二(二〇)	二二(四六)	九(三五)	一三(五九)	三一(一六)	八(二〇)	四(二〇)	四(一九)	三三(一五)	一〇(二三)	一三(二七)	二(二〇)	二(二〇)	三(一五)	〇	〇	〇	〇	二一(六二)					
二四	七(九)	四(四)	一(六)	三(三〇)	三(六)	二(八)	一(五)	一七(九)	六(五)	三(二五)	三(四)	一一(七)	八(二〇)	三(四)	二(二〇)	二(二〇)	三(一五)	〇	〇	〇	〇	二〇(五九)					
一七	八(二〇)	三(一二)	三(二七)	〇	五(二〇)	三(一二)	二(九)	九(五)	二(五)	〇	二(二〇)	七(四)	四(五)	三(四)	二(二〇)	二(二〇)	三(一五)	〇	〇	〇	〇	四一(六〇)					
五	一(二)	一(四)	一(六)	〇	〇	〇	〇	四(二)	三(七)	三(二五)	〇	一〇(六)	一(二)	〇	二(二)	二(二)	三(一五)	〇	〇	〇	〇	一九七(六五)					
二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二(二)	〇	〇	〇	二(二)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二二(七九)					
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二六(八一)					
二七三(六九)	七六(七〇)	二八(五八)	一八(五五)	一〇(六七)	四八(八〇)	二六(八一)	二二(七九)	一九七(六五)	四一(六〇)	二〇(五九)	二一(六二)	一五六(七〇)	七七(七七)	七九(六六)	計												

第二表

累 計	新 來 患 者 一 〇 八						在 所 患 者 二 八 八						病 期 別		
	合 計	女 四 八			男 六 〇			合 計	女 六 八			男 二 〇			
		計	I, II	III	計	I, II	III		計	I, II	III	計		I, II	III
			三三	一五		三三	二〇			二八	三四			三六	一五
一五五	五七	二四	一七	七	三三	二〇	一三	九八	三六	二一	一五	六二	三五	二七	〇
七四	一〇(二〇)	七(二九)	四(二五)	三(三八)	三(一一)	二(一六)	一(七)	六四(三四)	七(二二)	二(一五)	五(二六)	五七(三六)	二三(三五)	三四(三八)	A (%)
九五	一七(三三)	五(二一)	二(一三)	三(三八)	一二(四四)	五(四二)	七(四七)	七八(三九)	一三(四一)	五(三八)	八(四二)	六五(四一)	二五(三八)	四〇(四三)	B "
三六	一八(三五)	九(三七)	七(四四)	二(二五)	九(三三)	四(三三)	五(三三)	一八(九)	三(九)	一(八)	二(一一)	一五(九)	七(一一)	八(九)	C "
一三	四(八)	二(八)	二(一三)	〇	二(七)	一(八)	一(七)	九(五)	三(九)	三(二三)	〇	六(四)	四(六)	二(二)	D "
一〇	一(二)	一(四)	一(六)	〇	〇	〇	〇	九(五)	六(一九)	二(二五)	四(二二)	三(二)	一(二)	二(二)	E "
七	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七(四)	〇	〇	〇	七(四)	五(三)	二(二)	F "
三	一(二)	〇	〇	〇	一(四)	〇	一(七)	二(一)	〇	〇	〇	二(一)	〇	二(二)	G "
三	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	三(二)	〇	〇	〇	三(二)	一(二)	二(二)	H "
二四一(六一)	五一(四七)	二四(五〇)	一六(四九)	八(五三)	二七(四五)	一二(三八)	一五(五三)	一九〇(六六)	三二(四七)	一三(三八)	一九(五六)	一五八(七〇)	六六(六六)	九二(七七)	計

上表ノ示ス所ヲ摘録スレバ、

一、肺結核患者三九六名ノ内六九%ニ於テ二個以上ノ腋窩淋巴腺ヲ、六一%ニ於テ頸部淋巴腺ヲ觸知ス。

一、性別ニヨリテ大差ナシ、タダ男子ニ於テ少シク觸ル、率多シ。
 一、病期ニヨリテ觸知ノ率ニ差違ナシ、頸部淋巴腺ハ三期患者ニ稍々多ク觸ル、モ、之レ或ハ皮下脂肪ノ著シク消耗セラレ居ルモノ多キ爲メ、觸レ易キニ由ルカ。

一、觸知淋巴腺ノ大サハB大最多數ヲ占メ、腋窩ニ於テハC、A、頸部ニ於テハA、C、之ニ亞グ。
 其他

一、年齢、被檢者ハ主トシテ壯年ノ者ノミナル故、年齢ニヨル差違ハ明白ナラズ。タダ十五歳以下ノ患兒二六名中一八名(六九%)ニ於テ腋窩腺ヲ觸レ、二二名(八五%)ニ於テ頸腺ヲ觸知スルコトヲ得タリ、即チ年少者ニ於テハ頸腺ヲ觸ル、率壯年者ヨリ大ナリ。

一、兩側ニ存スルモノト一側ノミニ存スルモノトノ割合ハ、

腋窩淋巴腺、兩側一四八、右側五三、左側七二。頸部淋巴腺、兩側一一五、右側五九、左側六六、即チ兩側ニ觸ル、モノハ、腋窩腺ニ於テハ、觸レ得ル總テノ場合ノ半數以上ニ、頸腺ニ於テハ半數ニ近ク存ス。
 一、各側肺ノ病變度ト同側ニ於ケル腋窩腺及ビ頸腺ノ大サ及ビ數トノ關係ハ互ニ竝行セズ。

第三表

腋窩腺		腺頸		右側ノミ觸ル	左側ノミ觸ル	兩側ニ觸ル	觸ルズ
I, II 患者	右ノ内 右肺患者	I, II 患者	左肺患者				
二〇〇	六五	二〇〇	三〇	二九(一五)	三四(一七)	七八(三九)	五九(三〇)
一三(二〇)	五	七(二三)	三〇	二九(一五)	五(八)	二九(四五)	一八(二八)
三〇	六五	三〇	三〇	三一(一六)	六(二〇)	七(二三)	一〇(三三)
三〇	六五	三〇	三〇	三一(一六)	二九(一五)	四七(三四)	九三(四七)
一〇(一五)	四(六)	一四(二二)	三七(五七)	六(二〇)	八(二七)	一六(五三)	

()内ハ數%ヲ示ス

一、一側ノミニ臨牀上肺及ビ肋膜ノ病變ヲ證明スル場合、同側ノミニ淋巴腺ヲ觸ル、ガ如キ事多キヤ(表三)。
 病側ノ診斷ハ主トシテ打診及ビ聽診ニヨル、X線ハ多クハ用ヒズ。

即チ一般ノ分配率ニ比シテ大差ナシ。

一、各側ノ頸腺ト腋窩腺トノ間ニモ並行的關係ナシ。

一、在所患者ハスベテ、一乃至十數回ノA-O治療ヲ行ヒシモノニシテ(上膊皮下ニ注射)、新來患者ハ毫モA-O注射ヲ行ハザル者ノミナリ、兩者ノ間ニ顯著ナル、頸腺及ビ腋窩腺ノ觸知率ノ相違ヲ認メズ。

一、臨牀上明ニ淋巴腺結核ト認ムベキモノ、

在所患者中

頸腺

一二名

腋窩腺

四名

新來患者中

頸腺

三名

腋窩腺

二名

アリ。

以上ノ成績ハ非結核患者ノ檢査成績ト比較シテ、始メテ意義大ナルベシト考フルモ、所謂健康人ノ大多數ハ過去モシクハ現在ノ結核感染者ト認ムベク、眞ノ意味ノ非結核患者ハ、初生兒、幼兒ノ中ニ求ムルカ、又ハ結核處女地ノ居住者ニ之ヲ求メザルベカラズ、余未ダソノ機會ヲ得ザルヲ遺憾トス。

Benutzte Literaturen.

- 1) **Baer**, Jahrbuch f. Kinderheilkunde, Bd. 56, II. 6. 2) **Hochsinger**, 79. Versammlung deutscher Naturforscher u. Aerzte in Dresden, Minch. med. Wochenschrift 1907. 3) **Baer**, Beiträge zur Klinik d. Tuberkulose, Bd. 8. 4) **Bartel**, Julius Baer, Konstitutionelle Disposition der inneren Krankheiten. 5) **Kraus**, ebenda.